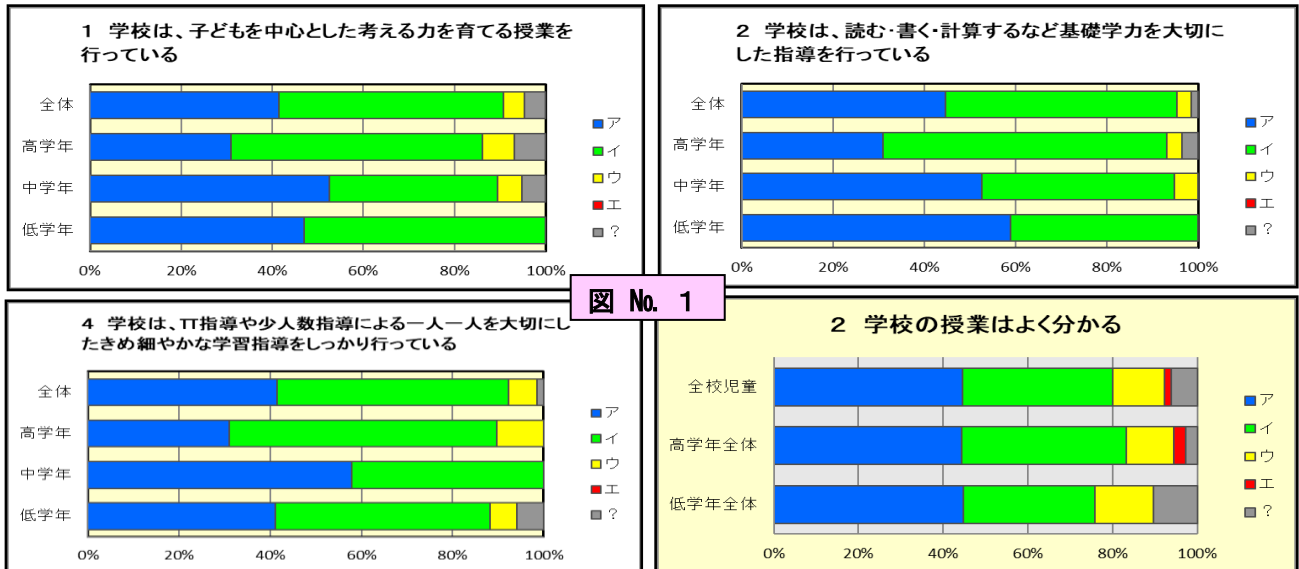


令和２年度 学校評価の結果と分析

大井小学校評価委員会
令和２年１２月調査 回収率 94%

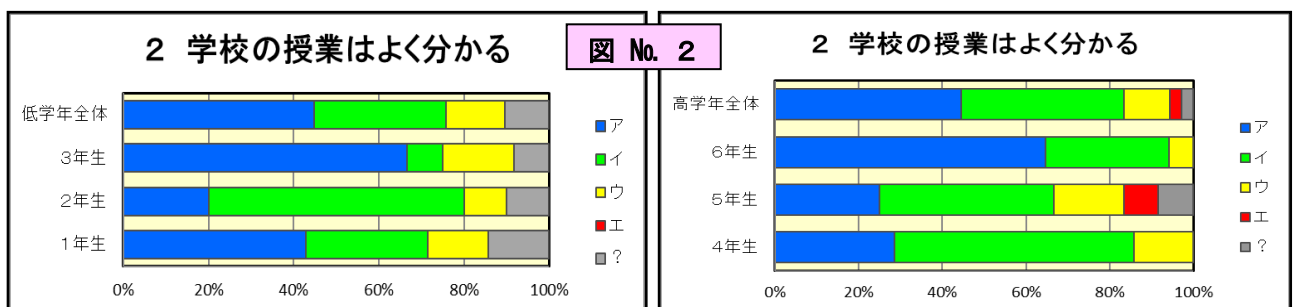
１ 本年度の重点努力目標について

ア 学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の充実を図る。 「おいに学び合い」



ア（よく当てはまる） イ（だいたい当てはまる） ウ（あまり当てはまらない）
エ（まったく当てはまらない） ?（わからない、答えられない）

本校では、本年度「基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、進んで考えることができる児童の育成」をテーマに、「分かる・できる」授業を目指した授業改善および児童の学習習慣の確立に取り組んできました。また、新学習指導要領の趣旨にある「思考力・判断力・表現力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」を重点課題として、授業改善や授業力の向上に努めてきました。その結果、昨年度とほぼ同水準で約 90% の保護者の皆様から肯定的な評価をいただきました。また、児童の結果からも、“学校の授業はよく分かる”に対して、**ア（よく当てはまる）**や**イ（だいたい当てはまる）**と答えている児童は全校で 80% であり、昨年度よりやや増加しています。【 図 No. 1 】



学年で見ると、低学年で**ア**や**イ**と答えている児童は 76% で、昨年度より 6% ほど減少しています。**ウ**や**エ**と答えた児童は 14% で昨年度と同じ程度、**？（わからない、答えられない）**と答えた児童が 10% ほどいました。高学年では、**ア**や**イ**と答えている児童は 83% で昨年度より 1% 増えました。引き続き、全児童が分かる・できる授業を目指して、児童の実態に応じた手立てを考え、改善を図っていく必要があります。【 図 No. 2 】

3 学校は、学校や家庭での学習習慣が身につくような取組を行っている

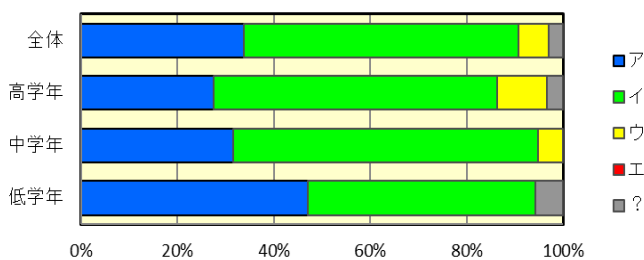


図 No. 3

“学校は、学校や家庭での学習習慣が身につくような取組を行っている”に対して、昨年度と同程度の90%ほどの保護者の皆様から肯定的な評価をいただきました。日常の家庭学習や「家庭学習の手引き」の活用、師崎中学校のテスト週間に合わせて毎学期行っている「やるぞ！勉強週間」の取組が評価されていると考えられます。【 図 No. 3 】

勉強時間目標達成度

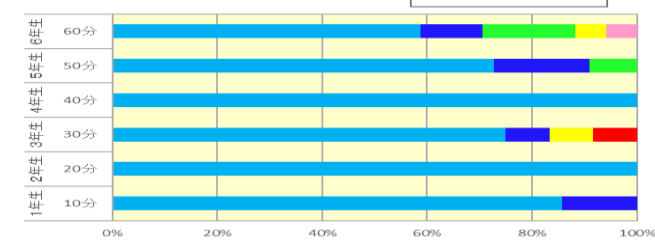
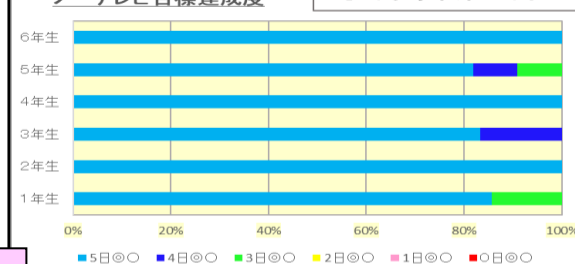
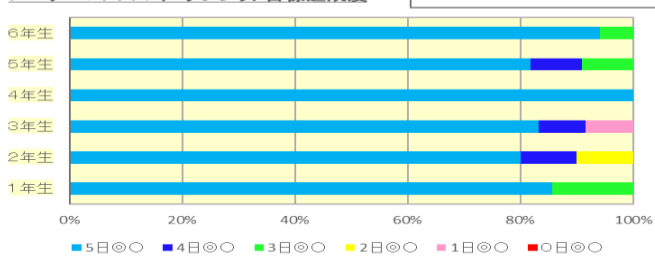


図 No. 4

ノーテレビ目標達成度



ノーゲーム・スマホ・タブレット目標達成度



「やるぞ！勉強週間」は、実施から5年目となり、今年度も学期に1回ずつ実施しています。

今年度2学期の取組状況を昨年度の2学期と比べると、毎日達成できた児童の割合は「ノーテレビ目標達成度」「ノーゲーム・スマホ・タブレット目標達成度」の2つでほぼ同程度でしたが、「勉強時間目標達成度」は低学年が高くなりました。多くのご家庭でご支援・ご協力いただいたおかげです。ありがとうございました。

しかし、目標時間（10分×学年）が多い高学年での達成度は70%程とまだ低く、中学校への進学を見据えて、家庭学習の取組への意欲を高めていく必要があります。【 図 No. 4 】

また、毎月月末に行っている『漢字・算数確認テスト』はよく定着し、児童とともに保護者の皆様の意識も高くなってきています。各学年とも事前に学年日より等でテスト範囲を早めに知らせていることもあり、合格を目指して家庭でしっかり学習（復習）ができています。そして、“子どもは、進んで家庭学習をするようになってきている”と思う保護者の皆様の割合は、66%と昨年度より13%も高くなり、約三分の二の保護者が肯定的に受け止めています。【 図 No. 5 】

12 子どもは、進んで家庭学習をするようになってきている

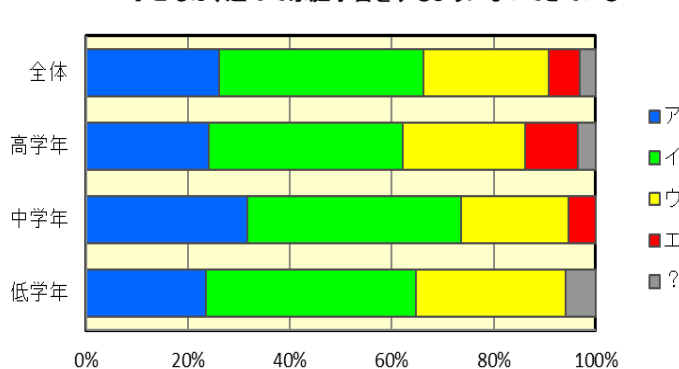
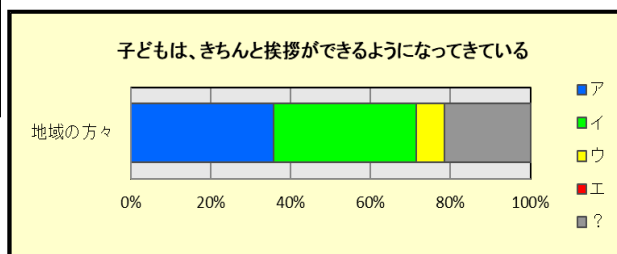
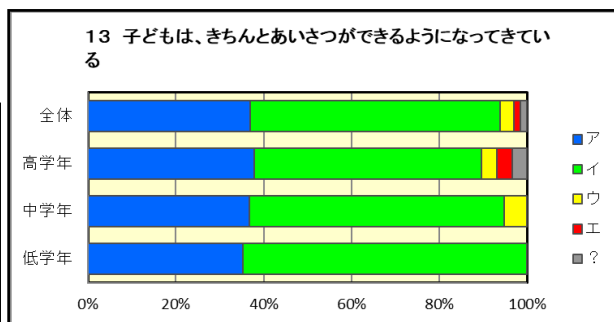
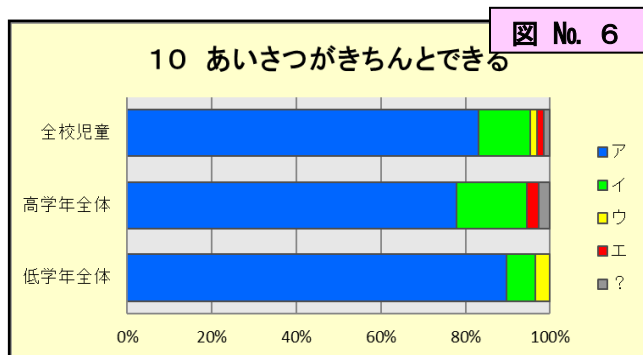


図 No. 5

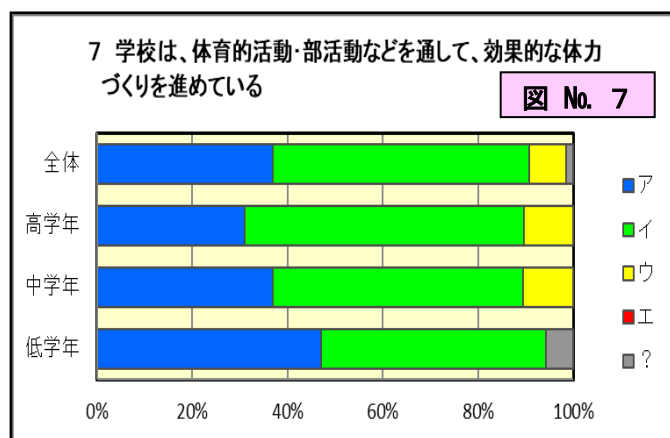
『やるぞ！勉強週間』や『漢字・算数確認テスト』への意欲的な取組や努力の積み重ねが家庭学習の習慣化につながり、少しずつ成果が上がっています。今後も、児童の意欲を高め、児童が主体的に学習に取り組めるよう、取組の内容や指導の方法の改善を進めていきたいと思います。今後も、家庭と学校がよりよく連携して、家庭学習の一層の定着を進めていけるよう、ご支援・ご協力をよろしくお願いします。

イ 心の教育を充実し、心身ともにたくましい児童の育成を図る。 「おおいに育ち合い」

今年度も、「笑顔・あいさつ・運動のある、活力あふれる学校づくり」を目指した取組として、校内では、児童会が中心となって挨拶運動を推進してきました。毎学期、児童会役員が、視遠橋や昇降口に立って挨拶を交わす運動を実施してきました。挨拶運動のポスターを掲示するなど、児童会役員の積極的な取組により、明るく元気な挨拶の音が響いていました。校外では、保護者の皆様が一斉大監視日や「0の日」に交通安全運動を行う際、登校する児童に挨拶などの声かけを進んで行っていました。また、師崎地区小中学校連携の一環として、毎学期、師崎小学校や師崎中学校と日にちを合わせて三校合同挨拶運動を行いました。今年度も地域の方々に多数参加していただきました。



以上のような取組の効果もあり、“あいさつがきちんとできる”に対して、アやイと答えている児童が全校児童の95%を超え、昨年度よりも10%ほど増加しました。保護者の皆様につきましても約95%の方が“子どもは、きちんとあいさつができるようになってきている”に対してアやイと答えており、昨年度より10%ほど増加しました。また、地域の皆様からは、昨年度と比べ20%低い70%の評価をいただきました。これは、?（わからない、答えられない）と答えた方が20%みえたことが原因であると考えられます。その理由として、新型コロナウイルス感染症の影響で「地域で子どもたちをほとんど見かけなかった」とのご意見を伺っています。一日も早く、コロナが収束することを願い、今後も家庭や地域の皆様と連携して、誰とでも自然に挨拶のできる児童を育てていきたいと思います。【 図 No. 6 】



体力づくりに関しては、昨年度よりは5%増加し、90%近い保護者の皆様からよい評価をいただいております。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で4月と5月は、臨時休校となり、町小学校陸上大会や夏の部活動の大会が中止になりました。その後、秋には町小学校体育大会に向けて、感染症への対策を取りながら部活動を再開しました。

学習発表会後の11月中旬以降には、感染症への対策を継続して取りながら、例年通り

冬季のジョギングタイムや縄跳びタイムなど児童の体力づくりに向けた取組を実施することができました。児童はそれらの取組に大変意欲的に参加していました。また、大放課や昼放課には、マスクを着用して、例年と変わりなく多くの児童が運動場で元気よく遊んでいる様子が見られます。小規模の学校であるため、異学年の児童が仲良く一緒に遊んでいることが多く、体力づくりだけではなく、

上級生が下級生を気遣ったり思いやったりする場面が見られるなど、豊かな情操を養う場にもなっています。

なお、部活動については、以前から心配されているように、児童数の減少により同学年でチームを構成することができなくなってきました。特に女子は、卓球部とバスケットボール部があり、学年をまたいでもチームを構成することができない状況を迎えることが予想されます。今後も、金管バンド部も含めた部活動の在り方について保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら、改革を進めていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが未だ見られない状況にありますが、今後も、国や愛知県、南知多町の指針を受け、感染状況を踏まえて、学校の体育的活動や部活動の活動計画を見直したり、活動内容を精査、吟味したりして、コロナ禍における効果的な体力づくりを進めていきたいです。

【 図 No. 7 】

“学校は、いじめ防止についてしっかり取り組んでいる”に対して、肯定的な評価をされた保護者の皆様の割合は、約70%で昨年度よりやや減少しました。【 図 No. 8 】

学校では、毎学期、教育相談週間を設け、児童一人一人と面談をし、困っていることを相談できるようにしています。また、定期的に全児童を対象に「いじめアンケート調査」を行い、いじめの早期発見・早期対応を図っています。また、毎学期、いじめ・不登校対策委員会を開き、全教職員で情報を共有し、対応の仕方を協議し合うなど、全校体制でいじめを見逃さず、対応していくように努めています。今後も、いじめのない学校を目指して、道徳の授業や生活指導を充実させ、児童の心を育てて生きたいと思っています。

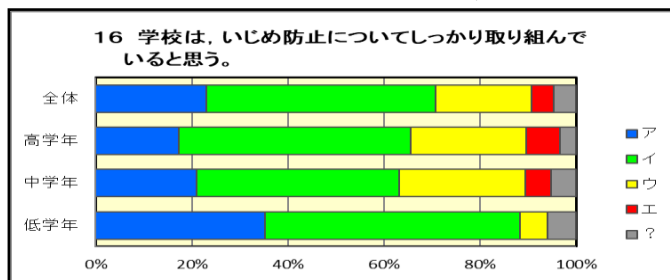


図 No. 8

ウ 地域に根ざし、地域に信頼される特色ある学校づくりを推進する。 「いつも地域とともに」

今年度は、コロナ禍ではありましたが、読み聞かせボランティア・青少年を育てる会の皆様などのご協力のもとに、感染症対策を取りながら「地域に開かれ、地域に学ぶ教育」を目指した活動を進めてきました。そのことがご家庭にもよく伝わっているようで、

“学校は、地域の人との関わりを生かした、地域との連携を大切にしている”に対して、90%に近い保護者の皆様から肯定的な評価をいただきました。【 図 No. 9 】

特に、読み聞かせボランティア、青少年を育てる会の方々の協力による行事は、児童も楽しみにしており、「今後も続けてほしい」という意見を多くいただきました。

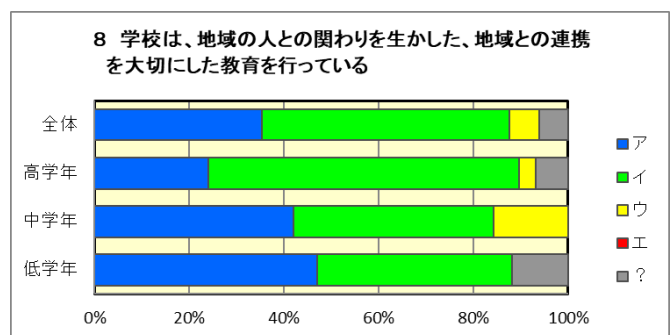


図 No. 9

2 今後、学校が取り組むべき課題

保護者及び地域の皆様にはご多用の中、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今年度も、皆様から数多くの建設的なご意見や学校や教職員に対する温かい励ましのお言葉をいただき、大変参考になりました。

児童数は減少傾向にあり、小規模校ゆえの課題が山積していますが、今後も小規模校・少人数学級のよさを生かした教育活動を充実させ、保護者や地域との連携を深め、地域に根ざした魅力ある学校づくりを進めていきたいと思ひます。

また、今後も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学校行事や教育活動が制限され、実施時期を変更したり、内容を見直したりするなどの対応が必要となることが考えられます。児童の安心、安全を最優先に考え、感染症対策を講じながら児童の学びを保障するよう努めてまいります。

今後も今回の学校教育評価をもとに、次の3点に力を注ぎ、学校教育活動の改善を図っていききたいと思ひます。引き続き、ご支援ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

- 児童一人一人を大切にひて、学ぶ意欲を高め、よく分かる授業を実践する。
- 笑顔・あいさつ・運動のある、活力にあふれた学校づくりを進める。
- 家庭や地域との連携を深め、児童・保護者・地域からの信頼を高める。